

## 北海道以外での川とのつきあい ... 岐阜県郡上八幡

岐阜県の郡上八幡は、長良川上流にある町（郡上市八幡町）で、吉田川、小駄良川など三つの川が合流するところにあります。

背後まで山がせまる土地のため、川にせり出すように3階建て、4階建ての家が建ちなっています。

苦肉の策ではあったのですが、夏になると川風の入る家は暑さをしのぐことができます。また、家から直接水辺におりられるようになっていて、そこで洗い物やオトリ鮎（アユ釣りに使う）の飼育がされるなど、川は日常生活に深くとけこんでいるといえます。



水路と「いがわこみち」。水の中にコイが見える。

わき水や山水を引き、暮らしに利用するための「水舟」というものがあります。

これは、引いた水を2つまたは3つの水そうに流すものです。最初の水そうでは飲み水をとったり食べ物を洗ったりし、次の水そうで、よごれた食器などを洗います。

食べかすなどのよごれは、そのまま下の池などに流れて、飼われているコイなど魚のエサとなります。こうして水はきれいになってから川に流れこむ仕組みなのです。

観光用に設置されたものが、町のあちこちにあります。



街中の水場で鉢植えの手入れをする人。



小駄良川。吉田川に合流し、さらに長良川へ流れこむ。

吉田川から住宅地に引かれた水路には、きれいな水が豊かに流れ、コイなどの川魚が泳いでいます。

水路ぞいに二人がやっとならべるくらいの小道があり「いがわこみち」と名づけられています。

水は民家の裏手を流れ、夏にはスイカが冷やされ、また、洗たく場があって近所の人たちの社交の場でもありました（観光客が増えたため、こうした風景が少なくなっただけです）。



水舟。観光用のもの。

町を歩いていると、水の流れる音がすぐ近くで聞こえます。道ぞいにふたのついたみぞがあり、豊かな水が流れているのです。ふたを取って、ちょっとした洗い物をしている人もいました。

「前はふたなんかなかったんだけど、観光客の人が夜に落ちて、危ないってことになってね」とみやげ物屋の人が残念そうに話していました。

冬には「郡上染め」という染め物を吉田川の水にさらし、夏には子どもの度胸試しとして、橋から12m下の吉田川に飛びこむという行事がおこなわれるなど、郡上八幡は川と暮らしの結びつきがとても強い町です。

3 動物たちのこと（どうぶつたちのこと）：動物が増えることで狩りのえものが多くなり、自分たちの暮らしも助かることになる。

4 苦肉の策（くにくのさく）：苦しまぎれに考え出した方法のこと。